



事業の軌道に乗るまでの経緯や解決策など具体的な話に耳を傾ける参加者の皆さん

今あるものに目を向けて まちなか検討部会講演会

くずまき型DMO「まちなか検討部会」第4回講演会は12月17日、Cafeやどり木で町内外から約20人が参加し開催されました。

「今あるものに目を向けて『あったらいいな!』をかたちにしてみる」と題して総菜屋やイベントなどを手掛ける中根利枝さん（wagamama代表）が講演。子育てをしながらも起業し活躍の場を広げている講師の話に堀沙織さん（31歳、四日市）は「子どもがいるから無理だと思い込んでいたこともそうではないと知り、ワクワクしました」と刺激を受けたようでした。

バレー協会改名40周年 節目にさらなる活躍誓う

町バレーボール協会改名40周年記念祝賀会は12月8日、グリーンテージで協会員や愛好者など約30人が出席して行われました。

吉沢孝同協会長は「昭和33年に体育協会設立に併せ排球部として活動が始まり、昭和55年にバレーボール協会に改称。この40周年の節目を契機に仲間を増やし盛り上げていきましょう」とあいさつ。千葉朝雄同協会顧問が、外で競技をしていた設立当初の話を交えて祝辞を述べました。参加者たちは、思い出話に花を咲かせながらさらなる活躍を誓っていました。



町バレーボール協会の歴史を振り返りながらあいさつする吉沢孝会長

葛高生がサンタで訪問 少し早めのプレゼント

葛巻高校（木村基校長、生徒129人）の家庭クラブ委員と生徒有志らは12月13日、社会福祉活動として町内の保育園と児童館を訪問し、少し早めのクリスマスプレゼントを届けました。

江川保育園（中崎廣子園長嘱託員、園児21人）では、トナカイやサンタクロースに扮した生徒と一緒にダンスや絵を描いて交流。最後に一人ひとりにプレゼントが手渡されました。上平奈和さん（1年）は「子どもたちにプレゼントを渡したら、とても喜んでくれて、うれしかったです」と充実した表情をのぞかせていました。



優しく声を掛けながらプレゼントを手渡す葛高生たち



パネル討論で意見を交わす岩手大学浅沼道成教授とパネリストの皆さん

地域連携フォーラム 議論交え課題を確認

地域連携フォーラムin葛巻(町、岩手大学主催)は11月24日、グリーンテージで初開催され「スポーツを活用した協創のまちづくり」をテーマに町内のスポーツ関係者らによる活動の取り組み発表やパネル討論などが行われました。

町スポーツ協会の神谷牧子さん(42歳、浦子内)は「たくさんの人に参加してもらうことがまちの活性化にもつながる」と話し、事業への参加者が減ってきている現状をグラフで示しながら、周知方法に工夫が必要だと今後の課題を見出したようでした。

断熱DIYワークショップ 暖か快適空間づくりを学ぶ

11月30日と12月1日の2日間、新町地区のCafeやどり木で断熱DIYワークショップが開催され、延べ26人が断熱効果の理解を深めながら作業を行いました。

初日は、壁に断熱材をはめ込む作業から開始。説明を受けた参加者たちは手慣れた様子で断熱材を設置。開催場所を提供した(株)やどり木の南館則江代表は「作業をしているうちに温かさを実感。モデルケースとして皆さんにも断熱効果を体感してもらいたい」と見違えるほどの変化に大満足の様子でした。



断熱材を切り分け次々と壁にはめ込んでいく参加者たち

地産地消学校給食会 おいしいお肉に舌鼓

「いい肉の日」の11月29日、町内全小中学校で地産地消学校給食会が行われ、地元食材をふんだんに使った給食が提供されました。

葛巻小学校（佐藤隆司校長、児童110人）の1学年の子どもたちは、初めての地産地消給食に興味津々。「ステーキだあ」と沸き返り、大きな口でお肉を口いっぱい頬張っていました。明石悠那さんは「ヤマブドウを使ったソースが甘みがあっておいしかった。葛巻で採れた食材を使っていると聞いてびっくりしました」と地元食材のおいしさを実感したようでした。



地産地消学校給食会でステーキを頬張る児童たち